

今般、2016年1月1日を以て、弊社船舶戦争保険の、「除外水域」の一部を変更致しました。その中でも特に、お客様の関心が高いと思われる Indian Ocean の取扱い変更に関しまして、今回の変更の背景などをお届け致します。

### 1 船舶戦争保険の航路定限と「除外水域」

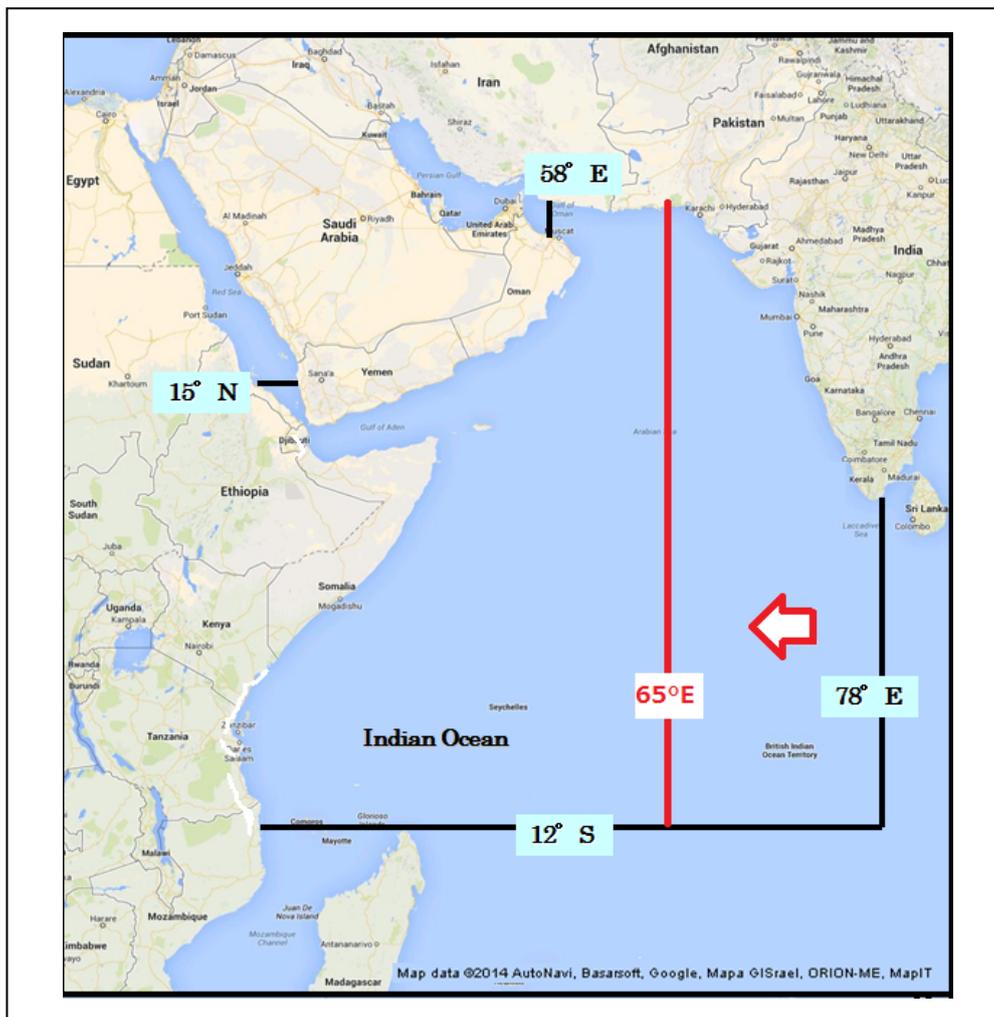
船舶戦争保険では、外航船に適用される航路定限は平時の状態とされる「一般世界水域」と、戦争危険度の高い「除外水域」に分けられており、後者については航海の都度、その危険度に応じた航海建の割増保険料をお支払い頂くことにより、保険のてん補対象となります。除外水域は都度情勢に応じて変更されるため、保険期間の途中であっても航路定限が変更されることがあります。これが船舶戦争保険の大きな特徴の一つです。

2016年1月1日に変更致しましたのはこの「除外水域」のうちの一部で、「Jolo 島を含む Sulu Archipelago 海域」、「Indonesia/Malaysia」、および「Indian Ocean」となります。

### 2 2016年1月1日の戦争保険除外水域(インド洋海域)の変更

#### (1) 除外水域の変更

2016年1月1日の除外水域一部変更のうち、本稿では「Indian Ocean」の変更部分を取り上げます。2015年12月31日までは、黒太線と陸地で囲まれたエリアが除外水域として扱われていましたが、2016年1月1日からは、矢印の通り東端を東経78度から東経65度に変更しました。



## (2) 変更の背景 ～ Joint War Committee における検討～

弊社をはじめ、海外を含む多くの船舶戦争保険者は、国際情勢に関わる様々な情報を参考にして戦争保険の除外水域を決定しています。

ここでは、戦争保険に知見を有するアンダーライター達によって構成された Joint War Committee(以下、JWC<sup>1</sup>)における今回の改定の検討内容について触れさせていただきます。

JWC は四半期に一度定例会議を開催し、世界各国の戦争リスクを検討・議論します。また、危険水域を特定する Joint War Listed Area(以下、JWLA)の更新・見直しもこの場で行われ、その内容が「参考情報」として発表されます。

2015年12月に開催された委員会にて、JWC は JWLA の変更を決定し、Indian Ocean の縮小を発表しました。これに関する JWC のコメントは、以下の通りでした。

- ① JWC は、独自のセキュリティーアドバイザーや軍事関連ソースから情報を入手しリスク実態を客観的に判断した上で JWLA を決定している。JWLA は、「Best Management Practice 4」(以下、BMP4<sup>2</sup>)における「High Risk Area(HRA)」や、UKMTO の策定する「Voluntary Reporting Area (以下 VRA<sup>3</sup>)」とは異なるものであり、JWC は常に独自の判断を行っている。
- ② JWC としては、引き続き海運業界の各協会が海賊の襲撃危険に晒されていることを警告している点、BMP4 のガイダンスが引き続き求められる点、VRA の変更がなされていない点に鑑み、引き続きこのインド洋エリアの海賊リスクが高いことについて懸念が残る、と考えている。
- ③ 一方で JWC としては、「海賊リスクは時間の経過とともに確実に減少しており、ソマリア海賊対策に従事する NATO 海軍は現在、東経 65 度線以西の海域しか護衛していない」ということも承知している。

上記を踏まえ JWC は、「海賊事件の件数は減っているものの脅威は去っておらず、一方で東経 65 度線より東の海域では、海賊リスクが収まりつつある」と判断し、JWLA の Indian Ocean 東側境界線を縮小すると決定しました。またそれ以外の境界線について仮に変更した場合、新たに一般世界水域となった海域・ルートに航行船舶が集中する事により、当該海域の海賊襲撃リスクが再び高まる恐れがあることから、現行の海域を維持するとの結論に至りました。

弊社と致しましても、この Indian Ocean 海域の動向には引き続き注意を払うとともに、状況に変化があれば必要に応じてご連絡をさせていただきます。

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せくださいますよう、宜しくお願い申し上げます。

以上

<sup>1</sup> ロンドン船舶保険マーケットに設置される組織で、戦争(保険)委員会などと呼ばれる。Lloyd's(ロイズ)および IUA(International Underwriting Association of London(IUA/ロンドン国際保険引受協会)のアンダーライターを中心に15名のメンバーにより構成される。その役割は、ロンドンの戦争保険マーケットを代表し、戦争保険に関する技術的なスタンダードの策定・モデル約款の作成などを行うことにある。また本文中にある、Joint War Listed Areas(JWLA)のアップデートも重要な任務である。

<sup>2</sup> BMP4: ベストマネージメントプラクティス(Best Management Practice/BMP)は、ソマリア沖およびアラビア海の高リスク海域を防止するため、当該海域を航行する船主、運航会社、管理会社に対し、推奨される運航計画と運用実務の情報を提供・提案している。特に、①当該海域を通航する船舶の MSCHOA(「アフリカの角」海事安全センター)への登録、②UKMTO(英国海事貿易オペレーション)への毎日の連絡、③Ship Protection Measures の実施、を求めている。2016年1月末現在、第4版(BMP4、2011年8月リリース)が最新版。

<sup>3</sup> VRA: Voluntary Reporting Area。BMP4 でいう「②UKMTO への連絡」に関連して、UKMTO への連絡が強く推奨されている海域。

\*\*\*\*\*

## TOKIO MARINE Topics (本船事故情報)

(2016年1月発信分を、纏めて掲載しております)

### 1. 2016年1月25日配信分

#### (1) 本船明細・航路・積載貨物

“DOLPHIN II”

コンテナ船、54,309 G/T、2007年建造

船籍：パナマ

登録船主：Hephaestus Marine LLC(ギリシャ)

航路：中国(洋山 1.14 出帆)、韓国(釜山 1.16 出帆) → ジャマイカ、米国、カナダ

積載貨物：コンテナ貨物

#### (2) 事故概要

本船 DOLPHIN II は、中国、韓国から米国に向け航行中の1月21日、日本の東海上で荒天に遭遇、積載貨物を流失した。少なくとも20本のコンテナが流失し、その他のコンテナにも損傷が生じた可能性がある。

(情報入手元：W.K.Webster、W.E.Cox)

### 2. 2016年1月18日配信分

#### (1) 本船明細・航路・積載貨物

“FU LONG”

一般貨物船、5,007 G/T、2000年建造

船籍：パナマ

登録船主：Rich Sino Shipping Ltd(香港)

航路：東アジア・東南アジア・オーストラリア近海(パプアニューギニア・キンベ 1.3 出帆)

積載貨物：一般貨物

#### (2) 事故概要

本船 FU LONG は、2016年1月14日、主機損傷発生。本船船主は救助業者と LOF で救助契約を締結した。現在、本船は自航不能となり、台湾の東方向へ漂流している。

(情報入手元：W.K.Webster)

### 3. 2016年1月12日配信分

#### (1) 本船明細・航路・積載貨物

“EVER ENVOY”

コンテナ船、76,067 G/T、2002年建造

船籍：英国

登録船主：Halifax Leasing March No.2 Ltd(英国)

航路：日本(東京、大阪 12.5、6 各出帆)、香港、中国 → カナダ(Vancouver 1.5 出帆)

積載貨物：コンテナ貨物

#### (2) 事故概要

本船 EVER ENVOY は、2016年1月2日、カナダ・ブリティッシュコロンビア州バウンダリー海峡で機関故障が発生した。本船は修理のためバンクーバーまでタグで曳航され投錨。

本船は、日本、中国などとカナダ、米国間のコンテナ貨物輸送に従事している。

(情報入手元：W.K.Webster)

#### 4. 2016年1月6日配信分

##### (1)本船明細・航路・積載貨物

“DOUBLE HAPPINESS I”

コンテナ船、2,752 G/T、1994年建造

船籍：カンボジア

登録船主：KH Norway Shipping Co Ltd(台湾)

航路：富山(12.24出帆)、横浜(12.26出帆) → 韓国・釜山(1.4出帆)

積載貨物：コンテナ貨物

##### (2)事故概要

本船 DOUBLE HAPPINESS Iは、2015年12月27日、対馬海峡で主機エンジン故障発生。

本船は、日本、中国、韓国間を往来していた。

乗組員は本船修理が行えず、修繕のためタグで韓国・釜山へと曳航された。

(情報入手元：W.K.Webster)

(内容は、いずれも情報配信時点のもので)

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

[http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine\\_site/index2.html](http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html)

TOKIO MARINE Topics(船舶)

[http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine\\_site/news/tokiomarine\\_topics/hull.html](http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/news/tokiomarine_topics/hull.html)